

日々是Oracle APEX

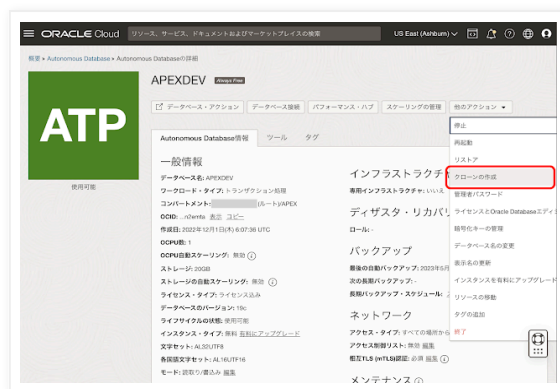
Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2023年6月1日 木曜日

Oracle APEXのアップグレード(4) - ADBのAPEXのクローンとアップグレード

Autonomous Databaseのクローン作業を確認します。Always Free枠のAutonomous Databaseは2インスタンスまで作成できるため、使用中のAutonomous Databaseをクローンし、アプリケーションの更新やテストを行うことができます。

Autonomous Databaseのクローンを作成するには、**他のアクションのクローンの作成**を実行します。



アップグレードのテストに使用する場合は、**クローン・タイプ**として**フル・クローン**を選択します。**ソースのクローニング**として**データベース・インスタンスからのクローニング**を選択します。クローンはインスタンスを実行したまま実施できます。

表示名および**データベース名**を指定します。以下の例では表示名は**Clone-of-APEXDEV**、データベース名は**APEXTEST**としています。

Autonomous Databaseのクローンの作成

クローン・タイプの選択

フル・クローン

ソース・データベースのデータとメタデータを kullanarak新しいデータベースを作成します。

✓

リフレッシュ可能クローン

ソース・データベースのデータで簡単にリフレッシュできる読み取り専用のフル・クローンを作成します。ソース・データベースへの接続を維持するには、7日(168時間)以内にリフレッシュする必要があります。

メタデータ・クローン

ソース・データベースのすべてのスキーマ・メタデータを含むが、ソース・データベースのデータを含まない新しいデータベースを作成します。

ソースのクローニング ①

☒ データベース・インスタンスからのクローニング
 ☐ バックアップからのクローニング

データベースの現在の状態のまま、実行中のデータベースのクローニングを作成します。
 バックアップからのクローニングを作成するか、ポイントインタイム・クローニングを作成するために使用します。

Autonomous Databaseクローンの基本情報の指定

優先リージョンの選択

米国東部(アッシュバーク) - 現在のリージョン

コンパートメントに作成

APEX (ルート)APEX

ソース・データベース名 読取り専用

APEXDEV

表示名

Clone-of-APEXDEV

リソースを簡単に識別できるようにするわかりやすい名前。

データベース名

APEXTEST

名前は、英字と数字のみを含めて、英字で始める必要があります。最大30文字です。

管理者資格証明のパスワードを設定します。

データベースを構成します

Always Free ①

☒ Always Freeの構成オプションのみを表示

①

お客様のAlways FreeのAutonomous Databaseにおいて7日間連続でアクティビティがなかった場合、データベースは自動的に停止します。データは保持されるため、データベースを再起動すれば引き続き使用できます。データベースが3か月間停止したままの場合、再利用されます。さらに学ぶ。

データベース・バージョンの選択

19c

クローン・データベースでは、ソース・データベース以上のOracle Databaseバージョンを使用する必要があります。

CPU数 読取り専用

1

Always FreeのAutonomous Databasesで利用できるコアは最大1つです。CPUコアの数は読取できません。

OCPU自動スケーリング

☐ OCPU自動スケーリング

需要の増加に応じて、指定されたOCPU数の倍まで拡張することをシステムに許可します。自動スケーリングの**詳細を学習**します。

ストレージ(TB) 読取り専用

0.02

Always FreeのAutonomous Databasesで利用できるストレージは最大0.02TB(20GB)です。ストレージ・サイズは読取できません。

ストレージの自動スケーリング

☐ ストレージの自動スケーリング

システムで、予約されたストレージの倍まで拡張できるようにります。フル・クローンのストレージ自動スケーリング設定は、プライマリAutonomous Databaseの数量と一致するようにロックされています。

管理者資格証明の作成 ①

ユーザー名 読取り専用

ADMIN

ADMINユーザー名は読取できません。

パスワード

パスワードの確認

ネットワーク・アクセスの選択

アクセス・タイプ

☒ すべての場所からのセ
 ☐ 許可されたIPおよび
 ☐ プライベート・エンド

Autonomous Databaseのクローンの作成 取消

ネットワーク・アクセスの選択、ライセンスとOracle Databaseエディションの選択などを選択し（Always Freeの場合はほとんど選択肢はありません）、Autonomous Databaseのクローンの作成を実行します。

ネットワーク・アクセスの選択

アクセス・タイプ

すべての場所からのセキュア・アクセス

データベース資格証明を持っているユーザーに、インターネットからデータベースへのアクセスを許可します。

✓

許可されたIPおよびVCN限定のセキュア・アクセス

指定されたIPアドレスおよびVCNへのアクセスを制限します。

プライベート・エンドポイント・アクセスのみ

OCI VCN内のプライベート・エンドポイントへのアクセスを制限します。

☒ 相互認証 (mTLS) 認証が必要 ①

このオプションを選択する場合、Autonomous Databaseへの接続を設定するためにmTLSが必要になります。

ライセンスとOracle Databaseエディションの選択

ライセンス・タイプの選択

ライセンス持込み(BYOL)

既存のOracle Databaseソフトウェア・ライセンスをOracle Databaseサービスに使用します。 [さらに選ぶ](#)

ライセンス込み

新しいOracle Databaseソフトウェア・ライセンスとOracle Databaseサービスをサブスクライブします。

✓

運用上の通知およびお知らせ用の連絡先を指定してください ①

連絡先の電子メール

有効な電子メールアドレスを入力してください

連絡先の追加

拡張オプションの表示

Autonomous Databaseのクローンの作成 [読む](#)

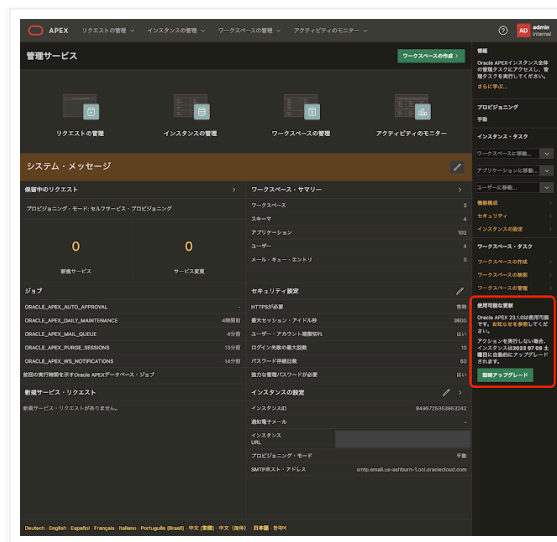
しばらく待つと、クローンであるAutonomous Databaseのインスタンスが作成されます。



作成されたAutonomous Databaseのインスタンスを使って、APEXのアップグレード前のテストを行うことができます。

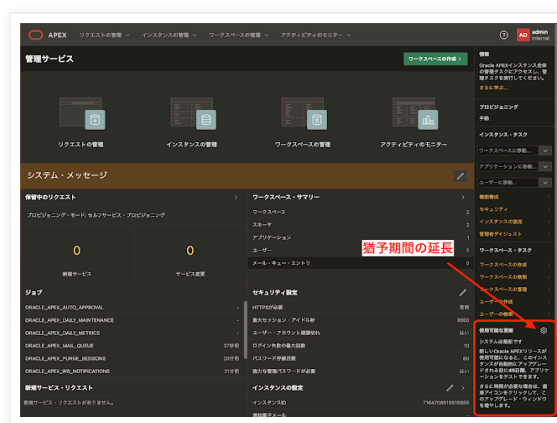
APEXの管理サービスにサインインすると、APEXのアップグレードの猶予期間が表示されます。Always Freeのインスタンスでは、新しいバージョンのAPEXが利用可能になってからAPEXのアップグレードが実施されるまでに、**45日**の猶予期間が与えられています。猶予期間の延長はできません。

この期間の間にアップグレードのテストを完了する必要があります。猶予期間が満了すると、APEXは自動的にアップグレードされます。



有償のAutonomous Databaseの場合は、猶予期間を45日から**90日**に延長することができます。

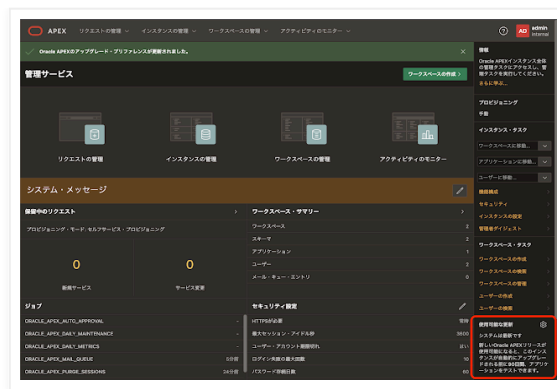
使用可能な更新の案内に表示されている**歯車のアイコン**をクリックします。



アップグレード・ウィンドウを90日に変更し、変更の適用をクリックします。



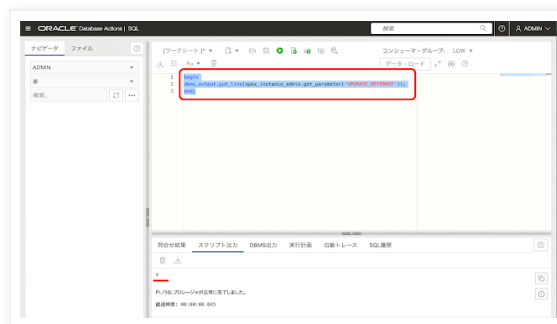
以上で新しいバージョンのAPEXが利用可能になったときの猶予期間が延長されました。



アップグレードの猶予期間は、**新しいバージョンのAPEXが利用可能になった後に延長することとはできません**。延長された猶予期間は、次のアップデート・サイクルから適用されます。

この設定は、APEXのインスタンス・パラメータのUPGRADE_DEFERREDに相当します。90日に延長されている場合は、値がYになります。

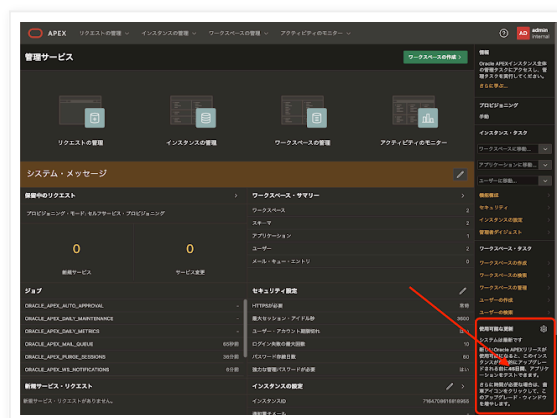
```
begin
dbms_output.put_line(apex_instance_admin.get_parameter('UPGRADE_DEFERRED'));
end;
```



値を変更するには、`apex_instance_admin.set_parameter`を呼び出します。

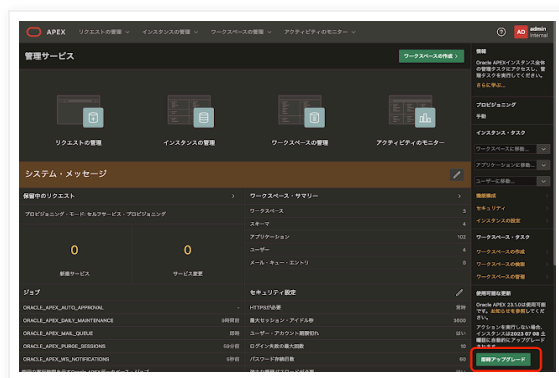
```
begin
apex_instance_admin.set_parameter('UPGRADE_DEFERRED','N');
end;
```

API呼び出しにて変更された設定は、管理サービスでの表示に反映されます。



Autonomous DatabaseのAPEXアプリケーションは、最大でも90日の間にアップグレードの検証を完了する必要があります。

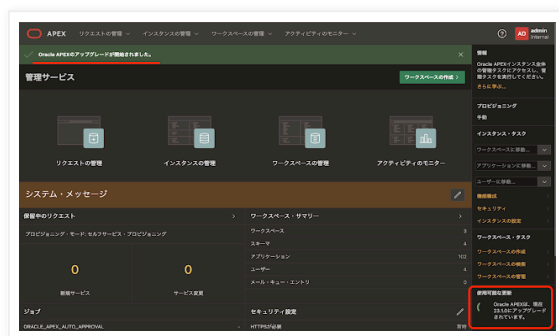
管理サービスの使用可能な更新に表示されている即時アップグレードをクリックすると、APEXはアップグレードされます。



確認のダイアログが表示されるので、**即時アップグレード**をクリックします。



管理サービスのページに、アップグレードが開始された旨、表示されます。



開発環境にサインインすると、以下のメッセージを確認できます。

Oracle APEXインスタンスを新しいリリースにアップグレード中です。アプリケーションへの変更は、アップグレード・プロセスの間は無効化されます。アプリケーションおよびOracle APEX開発環境へのアクセスは、最大3分間中断されます。

アップグレードの最中は、アプリケーションの変更は実施すべきではありません。

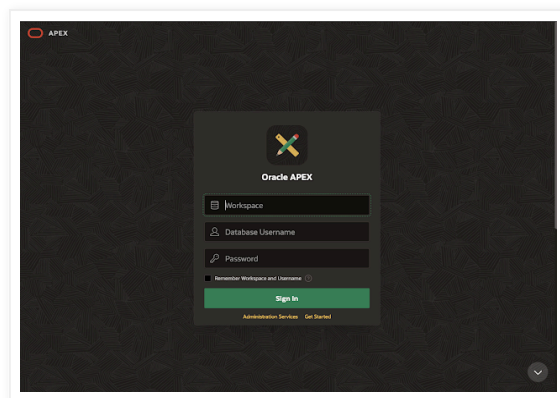


アップグレードの作業自体は、apexins.sqlの実行と等価と考えて良いので、後はアップグレードの終了を待つだけになります。

バージョンの切り替え時はページ・アクセスの際にエラーが発生します。最大でも3分間で解消します。

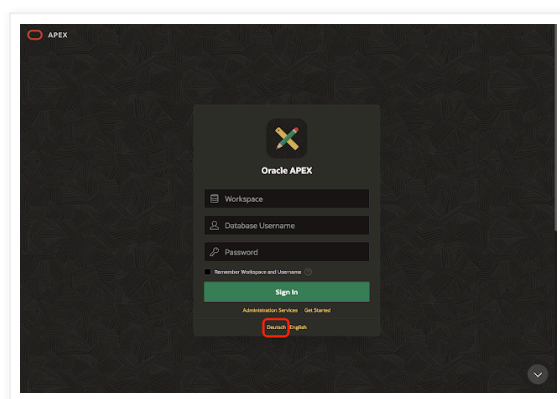


バージョンの切り替えが終わった後に、言語リソースのロードが始まります。そのため、開発環境にアクセスすると、当初は英語だけになります。

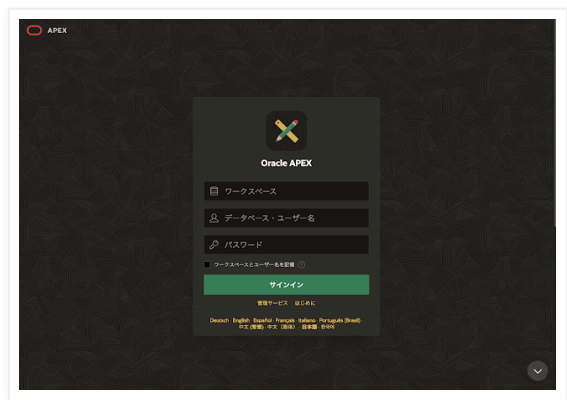


ロードされているのは開発ツールの言語リソースなので、作成済みのアプリケーションの日本語表示に影響はありません。また、ユーザーが作成したアプリケーションは利用可能です。

ロードが完了した言語リソースから利用可能になります。



すべての言語リソースがロードされるまでにかなりの時間がかかりますが、最終的には10言語が利用可能になります。



続く

Yuji N. 時刻: 15:00

共有

<

ホーム

>

[ウェブ バージョンを表示](#)

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.